

科 目	必・選	担 当 教 員	学 年 ・ 専 攻	単 位 数	授 業 形 態							
環境アセスメント (Environmental Impact Assessment)	選	靄巻 峰夫	1年生 メカトロニクス工学専攻 エコシステム工学専攻	学修単位 2	半 期 週 2 時間							
授業概要	環境アセスメントの社会的必要性和制度を理解した上で、ケーススタディで環境アセスメントの実際的技術とコミュニケーションツールとしての環境アセスメント図書の作成方法を理解する。											
到達目標	① 環境アセスメントの社会的必要性和対応した制度について説明できる (A) ② 環境アセスメントのスコopingの方法が説明できる (A) ③ 環境アセスメントの主要な環境影響要因、環境要素での予測、評価、環境保全措置の検討を行うことができる (A) ④ 環境アセスメント図書の作成手順と内容を理解する (A)											
評価方法	授業ごとに与える演習課題を60%、最終成果のケーススタディでの環境アセスメント図書を40%で評価する。評価基準は提出、期限の厳守、課題の項目の充足、課題の出来映えとする。試験と演習の総合評価が60点以上で修得とする。											
教科書等	説明用のパワーポイントデータを閲覧、ダウンロードが可能ないように提供する。											
内 容	(1回の自宅演習は260分を目処にする。)				学習・教育目標							
第 1 回	オリエンテーション. 環境アセスメントの社会的必要性	(自宅演習)	A									
第 2 回	環境アセスメントの制度 と作成図書, コミュニケーション	(自宅演習)	A									
第 3 回	環境アセスメントの対象環境要素と調査・予測・評価の枠組み	(自宅演習)	A									
第 4 回	ケーススタディ(1): 対象事業の設定	(自宅演習)	A									
第 5 回	ケーススタディ(2): 環境影響要因, 環境要素の整理調査・予測・	(自宅演習)	A									
第 6 回	評価手法(1): 大気汚染	(自宅演習)	A									
第 7 回	ケーススタディ(3): 大気汚染の現状調査 (文献調査)	(自宅演習)	A									
第 8 回	ケーススタディ(4): 大気汚染の環境保全措置と予測・評価	(自宅演習)	A									
第 9 回	調査・予測・評価手法(2): 水質汚濁	(自宅演習)	A									
第10回	ケーススタディ(5): 水質汚濁の現状調査 (文献調査)	(自宅演習)	A									
第11回	ケーススタディ(6): 水質汚濁の環境保全措置と予測・評価	(自宅演習)	A									
第12回	調査・予測・評価手法(3): 動物・植物	(自宅演習)	A									
第13回	ケーススタディ(5): 動物・植物の現状調査 (文献調査)	(自宅演習)	A									
第14回	ケーススタディ(6): 動物・植物の環境保全措置と予測・評価	(自宅演習)	A									
第15回	環境アセスメント図書の作成	(自宅演習)	A									
(特記事項)	JABEE との 関 連											
第4週以降, 和歌山県下での事業を対象に ケーススタディを行う。	JABEE	a	b	c	d1	d2a)d	d2b)c	e	f	g	h	i
	本校の学習 ・教育目標	A	A	C-1	C-1	C-2	B	B	D	C-3	B	B
			◎									

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

第1週 オリエンテーション. 環境アセスメントの社会的必要性

- ・ シラバスの説明
- ・ 環境アセスメントの対象事項
- ・ 環境アセスメント制度が我が国で確立されるまでの経緯
- ・ 環境アセスメント制度の法的な背景

第2週 環境アセスメントの制度 と作成図書, コミュニケーション

- ・ 国レベルでの環境アセスメント制度の枠組みと手続きの流れ
- ・ 環境アセスメント制度におけるコミュニケーション手法 (作成図書と意見聴取)

第3週 環境アセスメントの対象環境要素と調査・予測・評価の枠組み

- ・ 事業特性の把握と環境影響要因
- ・ 環境影響要因と環境要素, 予測・評価項目
- ・ 個別環境要素の予測方法の概要

第4週～14週 ケーススタディと調査, 予測, 評価の手法

- ・ 御坊市またはその周辺に立地する施設を利用した事業を対象に調査, 予測, 評価, 環境保全措置の検討を行う.
- ・ 対象事業に
- ・ 現状調査, 予測手法, 評価の考え方, 環境保全措置の方向性について環境要素毎に実際に作業できる知識を得る.
- ・ 対象とする3環境要素に対して現状調査, 予測, 評価, 環境保全措置の検討を行う.

第15週 環境アセスメント図書の作成

- ・ ケーススタディの成果を環境アセスメント報告書としてまとめる.

事前学習

次回講義について必要な資料を指定するので, 事前に調べておくこと。

事後学習

授業において発生した修正事項や追加事項を実施して, 自家授業に支障のないようにすること。

【COCとの関連】

ケーススタディとしては, 御坊市のごみ焼却施設や関西電力御坊火力発電所などを施設を想定して, それらが建設されて供用される事業モデルに対して環境アセスメントを実施する。